

問 1 .

***** 翻訳 START *****

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

第 1 方向に延在する出力主軸と、

前記出力主軸に間隔をあけて順次設けられた第 1 遊星歯車列、第 2 遊星歯車列及び減速機構であって、前記第 1 遊星歯車列の遊星キャリア、前記第 2 遊星歯車列のリングギア及び前記減速機構の出力部がそれぞれ前記出力主軸に接続され、前記第 1 遊星歯車列のリングギアが前記第 2 遊星歯車列の遊星キャリアに接続されている、前記第 1 遊星歯車列、第 2 遊星歯車列及び減速機構と、

エンジン、第 1 モータ及び第 2 モータであって、前記エンジンの出力軸、前記第 1 モータのロータ及び前記第 2 モータのロータが前記出力主軸に沿って同軸上に配置され、前記第 1 モータのロータが前記第 2 遊星歯車列のサンギアに接続され、前記第 2 モータのロータが前記減速機構の入力部に接続されている、前記エンジン、前記第 1 モータ及び前記第 2 モータと、

前記エンジンと前記第 1 遊星歯車列のサンギアとの間の動力接続を制御する第 1 クラッチ構造と、

前記第 2 遊星歯車列の遊星キャリアを選択的にロックする第 1 制動構造と、

前記エンジン、前記第 1 モータ、前記第 2 モータ、前記第 1 クラッチ構造及び前記第 1 制動構造を電氣的に接続する制御モジュールと、

を含むことを特徴とするハイブリッド動力システム。

【請求項 2】

前記ハイブリッド動力システムが駆動状態にある場合、前記ハイブリッド動力システムは、少なくとも第 1 電動モード、第 2 電動モード、第 1 ギアモード及び第 1 ハイブリッド動力モードを備え、

前記第 1 電動モードにおいて、前記第 1 クラッチ構造及び前記第 1 制動構造の両方が切断され、前記エンジン及び前記第 1 モータの作動が停止され、前記第 2 モータが動力を出力し、

前記第 2 電動モードにおいて、前記第 1 クラッチ構造が切断され、前記第 1 制動構造がロックし、前記エンジンの作動が停止され、前記第 1 モータ及び前記第 2 モータの両方が動力を出力する、

ことを特徴とする請求項 1 に記載のハイブリッド動力システム。

***** 翻訳 END*****

問 2.

*** 翻訳 START ***

図 2 を参照し、第 1 ステップ (S 2) において、切断された I o T オブジェクト 2 とパケットデータネットワーク 1 0 との間の中継接続をサポート可能な、マルチ R A T (r a d i o a c c e s s t e c h n o l o g y : 無線アクセス技術) に対応した U E 1 6 を探索する。例えば、切断された I o T オブジェクト 2 と同じ R A T をサポートする U E 1 6 を見つけることが可能であり、U E 1 6 は、接続を確立できるように、切断された I o T オブジェクト 2 に物理的に十分に近接している。リレー U E 1 6 が特定されると、切断された I o T オブジェクト 2 との接続を確立可能になるように、情報がリレー U E 1 6 に送信される (S 4) 。この情報は、例えば、切断された I o T オブジェクト 2 との接続に使用される R A T を識別する情報、及び R A T に使用されるパラメータ、例えば、チャンネル、モード、プロトコル、及び接続識別子 (例えば、W i - F i タイプの R A T 用のサービスセット識別子 (S S I D : S e r v i c e S e t I d e n t i f i e r)) を含む。追加情報には、リレー U E 1 6 が I o T オブジェクト 2 からの接続要求を検証し受け入れるために必要な証明書、トークン、又は識別子が含まれてもよい。I o T オブジェクト 2 がリレー U E 1 6 による中継を検証し受け入れるために、同様の追加情報を当該 U E 1 6 に送信して I o T オブジェクト 2 に再送信することも可能である。第 3 ステップ (S 6) において、中継 U E 1 6 は、切断された I o T オブジェクト 2 及びデータネットワーク 1 0 との接続を確立し、切断された I o T オブジェクト 2 がデータネットワーク 1 0 と通信できるように、当該接続をブリッジしてデータネットワーク 1 0 への常時接続を提供する。必要に応じて、例えば I o T サービスプロバイダと合意され得るモバイルネットワークオペレータのポリシーに応じて、中継 U E 1 6 とデータネットワーク 1 0 との接続を構成することができる。これにより、モバイルネットワークオペレータは、例えば、課金やデータの他の特別な処理を容易にするために所定のネットワークスライス内で中継パケットをルーティングすることにより、所望の管理機能を実現することが可能になる。

*** 翻訳 END***

問 3.

*** チェック START ***

これらの用途には、高強度で耐衝撃性のガラスが必要である。このような高い強度は通常、低温でのイオン交換プロセス、つまり化学焼き戻しとして知られるプロセスによって達成される。化学強化によりガラスが強化され、傷や衝撃に強く、爆発を防ぎます。化学強化は、ガラスの表面を置き換える機能を提供する。イオン交換プロセスの単純な原理は、 $350 \sim 490^{\circ}\text{C}$ の塩水溶液中、例えば NaNO_3 、 KNO_3 、又は NaNO_3 と KNO_3 との混合物中でイオン交換を行い、ガラス表面層にある半径が比較的小さいイオンを、液体中にある半径が比較的大きいイオンと交換して、例えば、ガラスにおけるナトリウムイオンを溶液中のカリウムイオンと交換する。

特に、厚さが $0.5 \sim 4\text{mm}$ のガラスに適している。化学強化ガラスの利点は、ガラスの反りを引き起こさないこと、表面の平坦度が元のガラスと同じであること、同時に、強度及び耐熱性がある程度向上すること、切断・せん断加工に適していることである。ガラスの強度は、 CS （表面圧縮応力）及び DOL （表面応力層の深さ）によって測定される。実際のアプリケーションでは、高い CS 及び高い DOL が求められる。 DOL （表面応力層深さ）及び CS （表面圧縮応力）を合理的に制御することで、高強度のガラスを得ることができる。 DOL （表面応力層の深さ）のサイズ、及び CS （表面圧縮応力）のサイズは、ガラスの組成、特にガラス中のアルカリ金属含有量に関連しており、強化時間・強化温度などの強化プロセスとも関連している。化学強化の過程で、ガラスの表面に圧縮応力層が形成される。

*** チェック END***